

第6回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和7年10月22日(水) 14:00~16:00
場所	茂原市役所 502 会議室
出席委員	関谷昇、鈴木明子、鬼島義昭、金城学人、松本光男、丸岡一人、中山和人、麻生斎、内山雅博、瀬戸伸太郎、板倉正典、千村文彦、保川貴俊、志水真美 (計14名、敬称略)
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 茂原市総合計画後期基本計画(案)について (2) 答申(案)について (3) その他 3 閉会

【会議要旨】

2 議題

- (1) 茂原市総合計画後期基本計画(案)について
〈事務局から資料に沿って説明。〉

委員

67 頁に「ベビーファースト宣言に基づき、子育て家庭にやさしい生活環境の整備に努めます」という文言を追加したが、具体的にどのようなことをしているのか。

事務局

茂原市の活動宣言「『未来に輝くこどもたち みんなで育てるまち もばら』を目指します!」に基づき、「総合的な子育て支援の充実」、「質の高い保育・幼児教育の提供」、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」からなるアクションプランを掲げている。

具体的には、市役所庁舎に授乳室やマザーズトイレを設置、専用駐車場を設置、また市役所8階に、手続きの間子どもが待てられるキッズスペースを設置している。

委員

31 頁「財政の見通し」について、5年間の歳入歳出の見込みの総額だけ示されても、計画の中でこれがどのような意味を持つのか、市民の方は分からないと思う。例えば、今までの5年間とこれからの5年間では税収はこのくらい差があるので、今後5年間で経常経費をこれだけ削減することで、政策的経費の財源を生み出す努力をします、というような

ものが示せば、総合計画の中にこのページがある意味が分かると思う。財政の見通しを総合計画の中で節を設けて表現するのであれば、もう少し市民に分かりやすい工夫が必要だと思う。

会長

この「財政の見通し」から分かるのは、予算の中で自由に使えるお金がない、ということであるが、どういう状況で、どう厳しいのか、ということ、市民に共有できるような表現の工夫が必要。

また、138頁「健全な財政運営の推進」の「財政運営の効率化・健全化」について、単に縮減しか記述しないと、これから行政としてできることがどんどん無くなっていくので削減していく、と見えてしまうので、もっと積極的な表現を。特に126頁以降は「協働のまちづくり」、「シティプロモーション」等前向きな話が多いので、積極的な建付けが良いと思う。

事務局

記載について検討する。

委員

26頁「両校なアクセスを」→「良好なアクセスを」

71頁「施策1 高齢者福祉の充実 (2) 地域包括ケアシステムの深化・推進」について、地域包括ケアシステムを電子化するなどしてタブレット等を活用し、行っているということを知ったことがあるので、電子化について触れても良いと思う。

92頁、防災と消防についても、防災がデジタル化しており、例えばドローンを飛ばしたり、市民の方が道路の通行不可の状況をリアルタイムで確認できるアプリも出ているということを知ったことがあるので、電子化について追記しても良いと思う。

127頁「施策2 市民の市政参加の機会充実」について、行政と市民の方の話し合いや地域コミュニティの話し合いが一番大切だと思うので、「話し合い」という言葉を入れると市民の方もより身近に感じると思う。

事務局

記載について、担当課にも確認し、検討する。

委員

計画自体は素晴らしいものに見えるので、それに実情が伴うように、担当課レベルで施策をしっかり行っていかなければいけない。

委員

51 頁「施策 4 安心して学べる教育環境の整備 (5) 特別支援教育の充実」の中で、「校長のリーダーシップのもと」とあるが、校長にも、リーダーシップを持って引っ張っていくタイプと陰からサポートするタイプと、様々だと思うので、個人を特定するのではなく、「組織」や「マニュアル」等、個人を特定しないものに変えたほうが良いのではないかと。

また、河川については、茂原市にとっては大変重要なテーマだが、97 頁の主要指標の目標値が低い。もう少し見栄えの良い数字に見直す考えはないのか。

事務局

記載について、担当課にも確認し、検討する。

委員

51 頁「施策 4 安心して学べる教育環境の整備」で、「エアコンやトイレ等の整備に努めます」という記載があるが、学校の体育館は避難所に指定されているところもあるため、93 頁「施策 1 防災体制の充実」にも、防災体制の観点からも、体育館へのエアコン設置に向けた努力を記載したほうが良いのではないかと。

事務局

記載について、担当課にも確認し、検討する。

副会長

126 頁に記載の「市民活動支援センター（まちびとカフェ）」のようなところが、歩けるような距離にあると、人が集まれるコミュニティの出発点になると思うので、まちびとカフェだけでなく、色々な、人が集まれる場所で何かをする必要がある。高齢者が移動できないということであれば、オンデマンドタクシーや市バスだけでなく、歩いて行ける場所に人が集まれる拠点を作っていくことで、20 頁の課題 5 に記載のコミュニティの活性化に少し手が届くと思う。計画に記載のある、公民館や、福祉センター、地域包括支援センター、公立長生病院、かかりつけ医、学校、公園緑地、空き家等を、横ぐしで通していき、人が集まれる拠点を作ること、施策をうまく動かすことができると思う。

会長

横ぐしの意識について、企画政策課ではなく担当課の意識が薄いと思うので、縦割りではなく、その意識を変えていかななくてはならない。

委員

茂原市には、そのような集まれる場所が少ない。また、例えば百歳体操をやるにしても、

その地域の人たちにお任せ、という現状であり、空き家や空き店舗を活用しようとしても、民間と民間では、中々貸してもらえない。行政のバックアップが足りないと感じている。

委員

19 頁に「産業競争力の強化推進」ということで、「企業誘致の推進」とあるが、東金市や横芝光町は既に着手しているが、茂原はこれからやっていく、というのでは間に合わないのではないか。

事務局

本年度予算にて、立地可能性調査を実施しているところである。

(2) 答申（案）について

〈事務局から資料に沿って説明。〉

委員

この答申案は総花的であり、緊急性・重要性があるものが何なのか分からないが、これで良いのか。

委員

この答申案には理念が感じられない。一本筋が通ったものが良い。

委員

予算に合う、合わないを考えるのではなく、将来の方向性を決めていくためには、どうしても総花的な記載になってしまうと思う。

委員

機構改革・財政改革までやるような本気度があるかどうか、そういったものがわかる答申にしてもらいたい。

コンサルを入れるとどうしても全国同じような内容のものになってしまう。市職員一人ひとりの、日頃業務をしている中での気づきを入れた計画にしていきたい、というのを答申に入れてほしい。

会長

財政が厳しい中で、どのように収入を膨らませていくか、調査研究を努力してほしいということ。

また、コミュニティの視点を横ぐしで入れること、それと、広域連携については絶対に

入れるべきである。例えば観光についても一つの自治体で持っているわけではない。千葉県は非常に縦割りが激しく、広域連携について最も弱いと言われている。県にボトムアップで、自治体から広域連携の動き、提案が出てこないと変わっていかないので、そういった意味でも計画に広域連携についてもっと盛り込むべきである。

(3) その他

〈事務局にて、今後のスケジュールの確認〉

以上